

平成 24 年度第 2 回 C C C 土木工学グループ運営委員会議事概要

I. 日 時：平成 24 年 7 月 13 日 15 時 00 分から 17 時 30 分まで

II. 場 所：公益社団法人私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：片田敏行委員、北詰恵一委員、武田誠委員

(事務局) 井端事務局長、森下主幹、野本職員

IV. 議事概要

1. 【2】教育改善モデル実現に求められる教育力について

教育改善モデルを実施する際に求められる教員の教育力について議論を行いまとめた。

- ・ 授業改善モデルの内容（文章、キーワード）を意識する必要がある。
- ・ 土木工学分野としての特徴的な項目を意識する。
- ・ 2つの教育改善モデルから 3,4 くらいの項目でまとめる。
- ・ カリキュラムポリシーに沿って教員間で教育内容の摺合せができる能力が必要で、基礎知識が社会でどのように活用されているかを理解させることも重要と考え以下の案が作成された。

①シラバス間の調整を行い、教育科目を体系的に明確にした上で、カリキュラムポリシーに沿った授業ができること。

②基礎科目の重要性を土木工学の社会的な意義と関連づけて理解させ、主体的に学ばせられること。

- ・ 学修ポートフォリオによる基礎力の洗い出しが求められ、上級学年生によるファシリテーターが必要との意見があり以下の案となった。

③学修成果のポートフォリオから基礎力の洗い出しを行い、学生一人ひとりに適した指導ができること。

④上級学年生が学習支援する際に、予習・復習やグループ学習の進め方をコーチングできること。

- ・ 学内外の専門家・教員との連携が必要で、教育プログラムの改善から振り返りができることが求められるとの意見から以下の案が作成された。

⑤現場情報に触れさせることによって、土木事業全体の中でのマネジメント上の課題を抽出させ、対話型授業が運営できること。

⑥学外の専門家・研究者・教員などと連携した教育が実現できるよう働きかけることができること。

⑦ICT を用いて学修成果の学部評価と学修の振り返りを行わせられること。

- ・ なお、①～④は教育改善モデルその 1 を、⑤～⑦は教育改善モデルその 2 を対象に検討した。

- ・ ⑦は「学習成果の学部評価」を行って、学生に「学修の振り返り」を行わせること。

2. 【3】教育力を実現するためのFD活動と大学としての課題について

教員の教育力を養うため、また、授業改善モデルが実施できるための対策を検討した。教員の取り組みで実施できるものを(1)FD活動にまとめ、大学として実施すべきものを(2)大学としての課題にまとめた。

(1) FD活動

教員間のシラバス調整、科目の体系化のための作業を示している。基礎科目の重要性和土木工学の社会的な意義とを関連づけることができるので、カリキュラムポリシーが設定できているという前提で以下にまとめた。

- ①教員間の連携のもとに授業内容とカリキュラムポリシーとの整合性の確認を委員会活動として継続的に行う必要がある。
- ②教養科目と専門科目の担当教員間で意見交換を徹底し、問題点を共有して解決を図る必要がある。
- ③ポートフォリオおよびグループ学習や対話型授業などの指導法について、ワークショップを組織的に行う必要がある。
- ④外部評価による振り返りを行わせる指導法について、専門家を招くなどの研究会を実施する必要がある。

(2) 大学としての課題

大学として教員が行う教育改善活動を制度と財政面で支援する姿勢が必要で、事例や教育手法など組織的な対応が重要性との指摘があり、議論を経て以下の案が作成された。

- ①関連分野の教員や社会の専門家などから協力を得るために、連携の呼びかけ、制度の整備および財政的な支援を行う必要がある。
- ②ICTを用いた教育改善の事例について対面またはネット上で情報提供を行う必要がある。
- ③ICTを活用した教育手法を支援する組織を大学として整備する必要がある。

V. 次回の開催日程

日時：平成24年8月27日 14時00分から16時00分まで